

# 令和4年度 学校総合評価

## 【今年度の重点課題に対する総合評価】

本校では、「心豊かで調和のとれた教育」を目指した教育活動を推進する方策として、6つの重点項目と12項目の達成目標を掲げて取り組んだ。

「学習活動」：自主的学習習慣の定着を目指し、各学年で平日家庭学習時間の達成目標を設定し、年間2回の調査を行った。結果は、全学年で達成できなかった。特に1年生は2学期で学習時間が減少し、3年生は1学期がとても低い数値となった。学習習慣の確立とともに進路目標を具体化させ、3年間を見通した意欲的、計画的な学習の取り組みが必要である。

普通科進学校として、生徒が主体的に授業に臨み、密度の濃い学習時間を確保するとともに、互見授業（そのフィードバックも含む）・校内研修・教科部会を通して授業方法の改善に一層努める必要がある。ICTを活用した授業研究、教材開発への意識をさらに高め、授業の充実を図りたい。

「学校生活」：「挨拶」と「服装」に重点を置いて指導してきたが、どちらの項目も、生徒の自己評価が高かった。登校時の挨拶の声がけと服装指導を継続的に行った効果と思われる。また、生徒会の校紀委員会の自主的な取り組みもあった。スマートフォンの使用についても、校紀委員会で生徒たちの話し合いの場を設け、ポスター掲示による自己管理と規定の遵守を呼びかけた。保護者の協力も必要である。

「進路支援」：3年間を通した計画的な進路指導を行い、生徒・学校・家庭が一体となり進路志望を決定し、その実現を図ることに取り組んだ。1年では自己理解や適性を把握したうえでの文理・科目選択、2年では大学見学等を通し、大学や学部を研究したうえでの具体的な進路目標の設定、3年では進路志望実現に向けての具体的な方策や進路に関する情報を示し、意欲を高めさせた。何れの学年でも個人面接を重視し、試験の結果分析と情報共有を教員間で行い、授業や面接に生かしている。1月に実施した「達成目標アンケート」では、各学年の評価は概ね良好であり、今後もこの取り組みを継続させたい。

「特別活動」：「学校行事の定期的な広報活動」と「学校行事・生徒会活動・ホームルーム活動に意欲的に取り組み、充足感を得た生徒の割合」を達成目標に設定した。広報は、毎月発行の「生徒会だより」の他、掲示板の活用やホームページの更新に取り組んだ。特に掲示板の活用は、委員会活動の様子や、アン

ケートの結果を速やかに伝えることができ、生徒全体で情報共有する場となった。一方で、行事等に意欲的に取り組む生徒の割合は高いものの満足度はやや減少した。また、ホームルーム活動等で話し合いやグループワークなどを積極的に取り入れるに至っておらず、今後課題を残した。

図書館活動の充実に関しては、「図書館だより、新着図書案内の発行回数」は当初の目標を達成した。また、「1ヶ月平均の図書館入館者数」に関しても、1年生対象の図書館利用のオリエンテーションや、「図書館フェア」、「教養講座」の企画を実施することで、ほぼ達成したといえる。今後とも読書意欲を高めるべく、ビブリオバトル等の活動をはじめ、様々な方策に取り組み、生徒が利用しやすい図書館環境を整えていきたい。

「その他（保護者・生徒・教職員・地域との連携、校内美化）」：「PTA行事に対する満足度」は、前年に引き続きコロナ禍の影響で実施できるものは限られたが、その範囲内では概ね好評価を得た。特にホームページで学校行事での生徒の様子を知らせ、更新も速やかに行うように努めた。これは今後も継続したい。「校内美化」は、学習環境を快適に保つために美化委員会を中心に清掃活動を実施した。

### **【次年度へ向けての課題と方策】**

次年度当初からマスク着用原則が解除されるように、新型コロナの影響は収まりつつある。しかし、単にコロナ以前に戻すのではなく、これを機に、各課題の現状分析をしっかりと行い、方策も見直すことが重要である。

令和3年度に職員、生徒、PTAや地域の方々からの意見も取り入れ、「呉羽高校スクールポリシー」を策定した。これは、どのような生徒を育て、そのためにどのような取り組みを行うかを具現化し、本校の特色を活かしつつ活力ある学校づくりをすすめる指針となるものである。本年度から実施しているが、まだ十分周知できているとは言えず、今年度のアクションプランにも生かし切れていない面がある。来年度はアクションプランの達成目標や方策にもこれらを反映させ、将来の呉羽高校の将来像を見据えたものにしていきたい。